

適期の田植えと適切な管理で初期生育を確保！

東北地方の向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みです。(気象庁、5/5発表)。
田植えの1週間前頃から夜間もハウスやトンネルを開放し、外気に慣れさせましょう。

適期の田植えと適切な管理

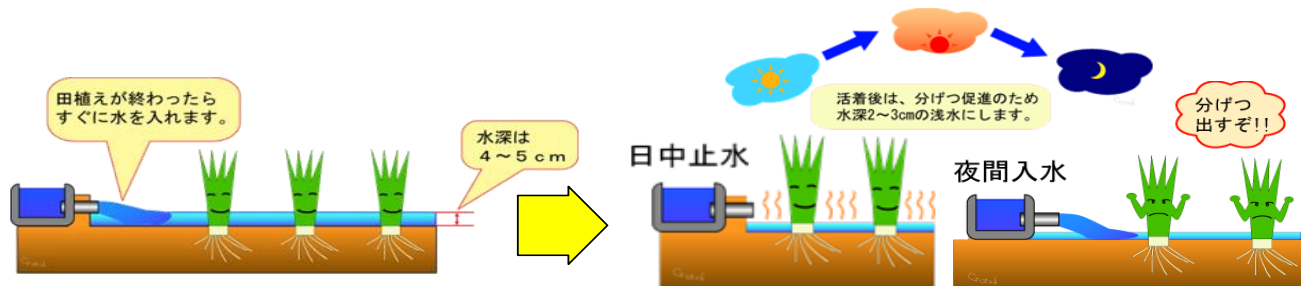
田植えの適期は5/15～20日頃です。(晩限は5/25まで、ただし「つや姫」は5/20日まで)

田植えは天気の良い日に適切な栽植密度で

- 田植えは、低温や強風の日をさけ、天候の良い日を選んで行いましょう。
- 植込本数は㎡当たり100本程度(70株/坪、株当たり4～5本)**を目安とします。
- 植付け深は3cm程度**を基本とします。(深植えは分けつの発生を抑制します)

こまめな水管理と異常還元(ワキ)等の対策で初期生育を確保

- 田植え直後は、4～5cm程度の水深とし、活着を促進させます。活着後は、2～3cmの浅水管理とし、日中止水・夜間かんがいの保温的水管理で、分けつの発生を促進させます。
- 晴天・高温が続く場合は、2～3日おきに水の入れ替えを行い、ワキや表層剥離の発生を抑制します。
- ワキの兆候が見られた場合は、速やかに水の入れ替えや夜間落水**を行いましょう。



病害虫防除・雑草防除のポイント

箱施用剤の適正使用と補植用取置き苗の速やかな除去

- プール育苗の場合は、田植え前の落水後に箱施用剤を散布します。また、育苗ハウス内で野菜等の後作を予定している場合は、苗をハウスの外に出してから箱施用剤を散布します。
- 補植用の取置き苗は、いもち病の伝染源となります。補植作業は田植え後1週間以内に行い、**取置き苗は速やかに処分**しましょう。

除草剤の適正使用で効率的な雑草防除

- 除草剤の使用基準をよく確認し、適切な使用時期の範囲内の早めの散布を心掛けましょう。雑草の葉齢が進むと、除草剤の効果が十分に発揮されない場合があります。
- 除草剤の散布後7日間は止め水**とし、田面を露出させないようにします。**除草剤の散布前には必ず水の入替え**を行いましょう。

※箱施用剤と除草剤(1キロ粒剤)の取り間違えに要注意。散布前によく確認しましょう。

春季農作業事故防止啓発運動 展開中！トラクターや田植機等の事故に要注意！

- 安全確認と予防対策(ブレーキ連結等)で公道でのトラクターによる事故を防ぎましょう。
- 圃場へ侵入する際は、傾斜方向に対して平行に侵入する等細心の注意を払いましょう。
- 熱中症にも要注意**。こまめな休憩と水分補給。ゆとりをもった作業を心掛けましょう。